

牡丹と歴史の街 洛陽

洛陽ってどんなところ？

中国最多の人口を有し、地域の大部分が黄河の南に位置していることが由来の河南省に西部に位置している。総面積は一万五千二百八万キロ(岡山県が約二万個)、人口は685万人(岡山県の約3.5倍)。また中国の南方と北方の境目に位置し、平均降水量は600mm(岡山の半分)、年平均気温は14.7度(岡山とほぼ同じ)で、一年を通じて日照時間が長い。



また、交通の便が便利

で、古くから『天心地胆』『十省要衝』と呼ばれており、昔から便利な地にあった。また、資源が豊富で、発展の潜在力も大きい都市でもある。すでに発見された(非)金属エネルギーは76種類にも及び、中でも日本でも癌の診断に利用されるモリブデンという金属の埋蔵量は全国でトップを占めている。

ミニコラム

日本との繋がりは、京都は、古く詩文において、中国王朝の都に因み、洛陽、長安などと呼ばれていた。右京を『長安』、左京を『洛陽』と呼んでいたらしいが、やがて『洛陽』が平安京の別名となり、その一字『洛』をもって京都を表す

龍門石窟

龍門石窟は洛陽の南5キロ伊水のほとりに位置しています。敦煌の莫高窟、雲崗石窟と並ぶ中国三大石刻芸術宝庫の一つで、2000年11月30日、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。石窟は北魏に開窟され、東魏・西魏・北齊・北周・北宋などの時代を経て合わせて400年間掘り続けられました。今ある仏像は2345窟、仏像は10万體にもものぼり、中でも一番大きいのは17.14メートル、一番小さいのは2cmしかない。中には、仏教の勢力を恐れた皇帝の命令によって首を破壊され、首がないものもある。



歴史と函谷関

洛陽について(歴史と牡丹)
古くは夏、殷、後漢、北魏、隋、唐など13の王朝において都となり、5000年以上の歴史があり、帝都として栄えた時期だけでも1000年以上になる洛陽。

函谷関

洛陽からは電車、バスを使って、約3時間ぐらいかかります。函谷関は春秋戦国時代に建て始められて、中国では一番古い要塞です。山と河の流れの厳しさがあるため、長安から洛陽への道の要所になっていました。そのため、昔から戦略的にもとても重要であり、歴史上の多くの有名な戦争がありました。例えば、『キングダム』にも出ていた合従攻秦(秦vs楚、韓、魏、燕、趙、齊)などが起きました。僕が中国で一番行きかけた場所です。



感想
中国に行って、空気の綺麗さや日本のお菓子の美味しさなど日本の良さが分かりました。函谷関に行って、中国の歴史を感じることができました。